俳句教育通信　令和７年　５月 27 日『季語の力』　　第３４号

本区の教育センターの周囲もすっかり「新緑」「万緑」の世界です。『季語』はその言葉に含まれている思いで、俳句のイメージを膨らませます。

今回は、中学３年生に、季語と季語とは関係ない別の「俳句の種」を組み合わせた「取り合わせの俳句」を作った実践をお伝えします。

「学校はどんなところ？」という講師の問いかけに、「楽しいところ！」と即座に反応がありました。生徒だけでなく、講師も中学校の国語科担当の先生も笑顔になりました。その言葉を受け、講師が「学校は楽しいところ季語」と板書し、「下五に季語を入れたら俳句の完成」と伝えました。「自分だったらどんな季語を入れる？」ということで、季語探しの活動になりました。「桜咲く」「蛙鳴く」等が生徒から提案されました。「12音と全く関係ない季語、遠い物でよい」と伝え、「学校は〇〇〇〇〇〇〇季語」の中七も考えていきました。「学校は友達と話すところ」との発言に「中七が長いから『友と話す場』にしてみよう」と講師のアドバイスに、納得した生徒たち。「学校は」のほかに「部活動」「音楽は」「友達は」「将来は」「生きがいは」と様々なお題で作句していきました。

授業のまとめは、自作 3 句を掲示し、クラスメートに人気投票をしてもらい、それを参考に「今日の自分の代表句」を決めました。ほとんどの生徒は、友達に選ばれた句を代表句にしていましたが、中には友達の評価とは関係なく、自分の考えで決めていた生徒もいました。以下に生徒の作品を紹介します。今の季節とは異なっても、取り合わせた季語への思いが想像できました。

『友達の恋を応援さくらんぼ』
『友二人テストで競う若葉風』
『友と行く修学旅行はレモン色』
『友達の推しの説明稲光』
『友達はふざける天才蝉の声』
『部活動個性あふれるオリオン座』
『将来は世界一周風薫る』
『生きがいは友との談笑五月晴れ』